

インターバンクの声（2016 年 9 月 14 日）

昨夜の海外市場は、原油相場の急落を嫌気して米国株が大きく下落した一方で、ドルは円や豪ドルに対して買い進まれた。前日は、ブレイナード米連邦準備制度理事会 (FRB) 理事を含めた 3 人の FRB 高官が利上げに対して慎重な発言をしたことで、9 月の利上げは見送られるとの見方からドル売りが進んだが、市場が発言に反応し過ぎたとの見方も買戻しに影響していたようだ。さらに、昨日は米長期金利が上昇傾向にあったこともドル買い・円売りを進め易かったようだ。こうした背景は、朝に伝わっているメディアの情報からも容易に振り返ることが出来るが、やはり細かい部分の値動きについては、ニューヨーク間を担当するディーラーや海外の仲間から直接聞かないと分からないことも多い。昨夜のニューヨークの午後、ドル/円が 102 円 20 銭辺りから急に 40 銭ほど上昇したのも、本邦経済紙の電子版が日銀の追加緩和があった際の緩和策の内容を報じたことに反応したことが理由だったらしい。米連邦公開市場委員会 (FOMC) での利上げは見送られるだろうとの見方が優勢になっているが、日銀が緩和に動くことへの期待は大きいのかもしれない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。